

## <参考資料>

### 1 東静岡周辺地区の整備に関する有識者会議

#### (1)設置目的

- ・本県を代表する「学術、文化・芸術、スポーツ」の集積エリアである東静岡駅周辺から名勝日本平、さらには三保松原に広がる地域の「場の力」の最大化を図り、その玄関口となる東静岡地区への「文化力の拠点」の形成に向けた検討を行うため、有識者会議を設置する。

#### (2)協議事項

- ・有識者会議では、下記事項をについて協議・検討を行い、本県の「文化力の拠点」の基本構想を策定する。
  - ①「学術、文化・芸術、スポーツ」施設の集積エリアである東静岡から名勝日本平、さらには三保松原に広がる地域の「場の力」の最大化に向けた地域づくりのあり方
  - ②東静岡駅周辺の「文化とスポーツの殿堂」にふさわしいたたずまいを生み出すまちの機能や、統一感あるデザイン、景観などまちづくりのあり方
  - ③東静岡駅南口県有地に整備を見込む「文化力の拠点」のコンセプトや導入すべき機能等

#### (3)有識者会議委員

(◎会長、順不同、敬称略)

分野	氏名	役職
文化	◎高階 秀爾	(公財)大原美術館館長
	芳賀 徹	静岡県立美術館館長
	遠山 敦子	(公財)トヨタ財団理事長
	石塚 正孝	静岡県コンベンションアーツセンター館長
大学	伊東 幸宏	静岡大学学長
	木苗 直秀	静岡県立大学学長
	荒木 信幸	静岡理工科大学名誉学長・学事顧問
建築 ・学識	内藤 廣	建築家・東京大学名誉教授
	坂 茂	建築家・京都造形芸術大学教授
	寒竹 伸一	静岡文化芸術大学大学院教授
	東 恵子	東海大学海洋学部教授

経済	岩崎 清悟	(一社) 静岡県経営者協会会長
	後藤 康雄	(一社) 静岡県商工会議所連合会会長
	中西 勝則	(株) 静岡銀行 代表取締役 取締役頭取
	酒井 公夫	(公財) 静岡観光コンベンション協会理事長
	藤田 圭亮	(株) なすび代表取締役社長

#### (4)開催経過

回数	開催日	協議事項
	開催場所	
第1回	平成26年9月8日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学術、文化・芸術、スポーツ」施設の集積エリアである東静岡から名勝日本平、さらには三保松原に広がる地域の「場の力」の最大化に向けた地域づくりのあり方</li> </ul>
	静岡県庁別館9階第1特別会議室	
第2回	平成26年12月26日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東静岡周辺の「文化とスポーツの殿堂」にふさわしいたたずまいを生み出すまちの機能や、統一感あるデザイン、景観などまちづくりのあり方</li> <li>・東静岡駅南口県有地に整備を見込む「文化力の拠点」のコンセプトや導入すべき機能等</li> </ul>
	静岡県庁本館4階特別会議室	
第3回	平成27年3月18日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“ふじのくに”の「文化力」を活かした地域づくり基本構想(案)</li> <li>～東静岡から名勝日本平、三保松原に広がる地域の整備～</li> </ul>

#### (5)委員の意見(まとめ)

<p><b>論点Ⅰ:「学術、文化・芸術、スポーツ」施設の集積エリアである東静岡から名勝日本平、さらには三保松原に広がる地域の「場の力」の最大化に向けた地域づくりのあり方</b></p> <p>&lt;「場の力」を高める「面」としての地域づくり&gt;</p> <p>○「点」から「線」・「面」への地域づくり</p> <p>(第1回会議での意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「点」である当地域内の個々の施設を「線」で繋ぎ、さらに「面」とすることで、「場の力」を高めることが可能</li> <li>・東静岡、日本平、三保はまだ「点」であるが、施設間の連携強化や公共交</li> </ul>
---

通機関、回遊性を持った緑のネットワークの形成により、「線」さらには「面」としていく地域づくりが必要（谷田地区や清水港ウォーターフロントも含めて「面」を形成）

- ・彫刻の設置、街路樹等の植栽、花による装飾などルートの魅力向上
- ・ムセイオン静岡などの施設間連携の取組強化
- ・「場の力」を引き出し、メッセージとして発信していく土地に根差したエリア名称の重要性
- ・目的を一つにして積み重ねた協働の力は、大きな可能性を持つ「場の力」となる。（清水港のポテンシャル、ベイエリアの可能性）
- ・東静岡から日本平、三保を一体的に捉えたエリアには、日本を代表する風景を眺望でき、緑の回遊性により、非日常性と日常性とが複合された空間づくり
- ・都市公園や自然公園の緑をつなぎ回遊性を持たせることにより、多様化したライフスタイルにあった居住環境と、おもてなし空間としての華やぎ緑化により、来訪者へゆとりや感動の提供が可能（ストロベリー海岸道路のいちご狩観光施設の景観、久能山東照宮石段下の店舗の質的空間整備、拠点繋ぐ交通体系の見直し、整備、日本平パークウェイの沿道の維持管理・整備等）

#### （第3回会議での意見）

- ・面的なエリア全体の景観計画を策定するとともに、やすらぎやもてなしを感じることでできる緑の役割を景観計画に位置付けることが重要
- ・市民参画のまちづくりにより、「つくり続ける、営みを続ける」という考え方が重要であり、それが、これからの静岡の人の力になる

### ○「点」と「点」を「面」に高める公共交通機関

#### （第1回会議での意見）

- ・当地域内に点在している「点」と「点」を「線」で結ぶという切り口で、「脱車（だつくるま）」がキーワード
- ・東静岡を拠点に、観光客も住民も自由に回遊できる公共交通
- ・LRT、辻馬車、バス、ロープウェイなど様々な公共交通の組み合わせにより、文化・芸術の拠点に触れながら、食も楽しみ富士山も見られる仕掛け
- ・魅力的なバスの定期的な運行
- ・ロープウェイを活用した日本平周辺の交通の円滑化
- ・東静岡から日本平へのロープウェイは難しいのではないか

#### （第2回会議での意見）

- ・東静岡がいろいろな拠点になるためには交通インフラが重要
- ・東静岡から日本平へのロープウェイは意見と交通インフラとして考えてもよいのではないか

### (第3回会議での意見)

- ・久能山東照宮とともに日本平一帯の持つ意義を実感できるよう新ロープウェイは日本平山頂で既存のロープウェイとスムーズに連携
- ・ロープウェイは最小の投資で最大の効果が得られるので上手く活用すべき
- ・ロープウェイのキャビンは斬新的なデザインが望ましい。これにより、ロープウェイに乗ることが観光目的になりえる。
- ・車以外のアクセス手段として、清水と日本平をロープウェイで結ぶことは考えられる。なお、整備に当たっては、マーケティングを行い、ビジネスとして成立するか十分な検討が必要
- ・日本平山頂ー果樹研究センター間のロープウェイは「点」が「線」、「線」が「面」になるメリットが出て現実性はあるが、5kmを超えるロープウェイは、事業性は厳しい。ロープウェイは運行の維持経費も含め、事業性を考えなければならない。

## <地域の特徴や独自性を打ち出した求心力の強化>

### ○交通の利便性を活かした地域づくり

#### (第1回会議での意見)

- ・東西方向、南北方向の交通利便性が高い当地域の優位性を地域づくりに積極的に活用すべき（中部横断道開通、リニア新幹線供用に伴う新幹線のサービス向上、東名新スマートインターチェンジ供用開始など）
- ・計画にあたり、県内だけではなく、県外からどのようにして人を呼込むかという観点が重要

### ○地域の独自性の打ち出し・アイデンティティの確立

#### (第1回会議での意見)

- ・大都市にはない静岡らしさ、個性・特徴ある発想、地域資源の掘り起こしが必要（都市間競争の時代）
- ・日本平山頂シンボル施設の整備による当地域の魅力の最大化
- ・「文化力」という明確な特色の打ち出し（文化力の拠点、文化の丘）
- ・「文化力」を誰のためにどう発揮するかイメージしておくべき
- ・歴史の観点を捉える。（登呂遺跡、古事記、万葉集、東海道、家康、駿府、久能山東照宮、廃藩置県後の静岡）
- ・恵み（食文化の豊かさ）を文化の一つとして捉える視点（農業、漁業の豊

かさ、海の恵み、山の恵み、大地の恵み)

- ・子供が楽しめる・学べる環境
- ・学生や留学生などの若者が集い・賑わい・学び・地域とともに活動する環境

**(第3回会議での意見)**

- ・静岡の東側という「東静岡」の地名は、空間のあり方・コンセプトにつながる名称に変更することが望ましい
- ・日本平山頂シンボル施設は魅力的な施設にすべき（眺望に加え知的満足などが高い施設)

**<県都静岡の新拠点にふさわしい地域づくり>**

**(第1回会議での意見)**

- ・東静岡、静岡がともに活気が出るような地域づくり
- ・静岡市の第3次総合計画との関連性を踏まえた、縣市連携した地域づくり
- ・駅近くに残った貴重な未開発の土地であるという視点

**(第3回会議での意見)**

- ・訪れる人々が、にぎわい、楽しさ、豊かさを味わえる空間、駅南北の県・市の施設全体で文化・スポーツの魅力が発揮されることが重要

**<その他>**

**(第1回会議での意見)**

- ・事業の主体をはっきり議論すべき

**(第3回会議での意見)**

- ・整備スケジュールも目標をイメージして取り組むべき

**論点Ⅱ：東静岡駅周辺の「文化とスポーツの殿堂」にふさわしいたたずまいを生み出すまちの機能や、統一感あるデザイン、景観などまちづくりのあり方**

**<「文化とスポーツの殿堂」にふさわしいまちづくりのあり方>**

**(第1回会議での意見)**

- ・他の計画を見ながら勝てる計画にする必要（都市間競争）
- ・新幹線への視覚的メッセージとしての重要性
- ・夢殿ホールは軽やかで半透明で羽衣を着ているようなデザイン
- ・豊かな自然、植物、恵みを感じられる拠点（無機質な建物が本当に必要か。）
- ・周辺の既存の緑を活かすとともに、集合住宅においても緑化等を進めるなど生活の質の向上を目的としたまちづくり
- ・非日常性と日常性の調和した拠点整備

- ・国際コンペによるグローバルな視野を取り入れたドラマチックな提案
- ・静岡県・静岡市の公共用地を合わせて計画することが不可欠

#### (第2回会議での意見)

- ・「静岡」の名前を付けた世界に誇れる会議・イベントの継続開催による世界への「静岡」の売り込み（例：世界名山サミット、漫画・アニメのイベント、舞台芸術の世界フェスティバル、「食」と「健康」をテーマとした「ピオ静岡」会議等）
- ・南側の芸術・文化関係、北側のスポーツが一体となった魅力的な場
- ・日本平の山頂が富士山のつながりにおいて極めて選ばれた「場」というストーリー、そしてそれが明確になるような施設をつくり、それと呼応して東静岡はどのようにしたらよいか考えることが重要
- ・景観法を活用した景観のコントロール
- ・富士見の観点
- ・緑のあり方を色々検討しながら空間を再構成することが重要

#### (第3回会議での意見)

- ・花と緑と水を配した印象的な空間とすることが望ましい
- ・年間を通じて様々なイベントを開催し、この地域の特色を出す（世界が注目する「食」や「健康」に関する国際フェスティバル）
- ・東静岡は日本平へのゲートであり、基本的な機能を入れたゲートをつくってはどうか
- ・グランシップは、高齢者や遠方からの利用者の多くが自家用車や団体バスを使用している。県民の利便性に配慮し、駐車場機能は考えておく必要がある
- ・東静岡の開発は最大限に景観への配慮を行うべき。必要があれば景観法による規制をかけた上で、公共が見本を示すことが必要
- ・東静岡の夜間の景観をもう少し掘り下げ、夜でも楽しめる魅力あるまちづくりをすべき（静岡の歴史・文化を発信するエンターテインメント性を持ったプロジェクションマッピングなど）

### **論点Ⅲ：東静岡駅南口県有地に整備を見込む「文化力の拠点」のコンセプトや導入すべき機能等**

#### ＜拠点機能検討の視点＞

#### (第1回会議での意見)

- ・拠点機能の検討にあたり、県内だけではなく、移住も含めて県外からも人を呼び込む観点も必要

- ・大都市にはない静岡らしさ、個性・特徴ある発想が必要
- ・「文化力」を誰のためにどう発揮するかイメージしておくべき
- ・駅近くの未開発の土地であるという視点（商業的にもっと有効に人を集める手立てを考えるべき）

#### （第2回会議での意見）

- ・富士山を「文化力の拠点」の中核に据えるべき
- ・ターゲットをどこに絞るか考えることが重要
- ・駅前の一等地の活用を、地方が抱える人口減少の問題解決に結び付ける

### <地域の独自性を打ち出す「文化力の拠点」機能>

#### （第1回会議での意見）

- ・歴史の観点を捉える展示の機能（歴史を大事にした、歴史をより鮮明に研究しそれらを一大絵巻にするような施設、コンセプト）
- ・恵み（食文化の豊かさ、農業、漁業）そのものを集約できるような施設、コンセプト
- ・自然、植物、恵みを感じられる拠点機能
- ・色々な所の「場の力」を活かせる拠点機能
- ・静岡県は子供を大事にして応援するというメッセージが伝わるような施設や環境（美術館、図書館、おもちゃ等の施設など）
- ・母親が静岡で子供を産み、育てたい気持ちにさせるような機能
- ・若者に結婚や子育てに対して明るい展望を持たせるような機能
- ・老人も子供も集う施設
- ・学生や留学生などの若者が集い、賑わい、学び、地域とともに活動し、静岡ならではの学びができる機能（大学コンソーシアムなど）
- ・ムセイオン静岡関係の図書館や美術館、大学コンソーシアム、展望ホール、静岡の特産物を使ったレストラン、宿泊施設、夢殿ホールなど
- ・拠点性を高めるコミュニティ・コンプレックスとして図書館、シアター等静岡アイデンティティの承継と創造の拠点、グローバル・インテリジェンス・クリエイティブな人材育成の拠点

#### （第2回会議での意見）

- ・アニメコンテンツの殿堂（著作権を整理する国の機関、漫画・アニメの博物館、工房等）を誘致するなど、まず人が集まることを考えることが重要
- ・県の文化施設相互のコラボレーションとともに、地域の文化施設との横の連携を強めることで、東静岡が静岡全体の文化力を上げる中心という位置付けが可能
- ・静岡の得意な「食」の文化に関わる集積地点

- ・子供、若者、一般県民が集まってきてわいわいできる楽しい場所
- ・観光に必要な情報提供の場、観光のモチベーションを提供できる機能
- ・県立中央図書館の一般向けの機能、美術館、赤ん坊から母親、若者、老人まで来られるような遊び場
- ・人口流出を防ぐ観点から大学の機能も必要
- ・食の学術的な観点と、和食の文化が同時に学べる新しい学びの場
- ・多文化共生は、留学生だけではなく、産業のグローバルな展開を目指して海外のビジネスマンを招致することで、様々な文化が集積し、多文化共生の拠点形成される
- ・大きなコンベンションを行おうとした場合、ボトルネックは宿泊容量
- ・宿泊施設はB&B的なものをつくり、地元の食材でおもてなしをすることが大前提ではないか
- ・静岡県には伊豆、浜名湖があり、多くの宿泊施設がある。そこまで視野を広げることが重要
- ・「文化力の拠点」の機能を支える情報インフラの整備が重要

### （第3回会議での意見）

- ・静岡県下の山海の豊富な食の名産品などを見て、触れ、味わい、何度も訪れ楽しめるような場
- ・アニメも含む諸情報を楽しみながら学び、新たな創造に結び付ける場
- ・SNS等を活用してコンソーシアムにアプローチできる情報通信機能が必要
- ・世界中レベルの歴史・文化等に関する専門的な研究センターが必要（徳川文明についての研究センター、世界の名山の研究センターなど） また、センターの研究成果を市民、学生等に還元するカルチャーセンターが必要
- ・宿泊容量をいかに確保するか知恵を出す必要がある。現実レベルを分析した上で計画を進めるべき

### <県と静岡市が連携した拠点機能>

#### （第1回会議での意見）

- ・静岡市第3次総合計画の具体的内容の取り込み